

## 平成 28 年度第 8 回霞ヶ浦自然観察会結果報告

「残したい霞ヶ浦の風景 秋の水路で小ブナ釣り」を実施しました。

開催日時：平成 28 年 10 月 15 日（土）午前 9 時 30 分から午後 2 時 30 分まで

開催場所：（午前）かすみがうら市戸崎 霞ヶ浦そばの農業水路

（午後）霞ヶ浦環境科学センター

参加者：36 名

今回の霞ヶ浦自然観察会は、昨年初めて実施して好評を頂いた秋の水路での魚釣りを行いました。場所は霞ヶ浦環境科学センターにも近い、霞ヶ浦湖岸とハス田の間にある農業水路です。小さな水路ですがたくさんの生き物の大切なすみかになっています。また、午後は霞ヶ浦環境科学センターに戻って、魚釣りとお魚教室を行いました。

当日は絶好の秋晴れが広がりました。ただ数日前から急に気温が下がってきたので、魚の動きが鈍くなって釣果が上がらないことが心配でした。

バスと徒歩で現地に向かいました。参加者のみなさんの目を引いたのはスクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）のピンクの卵塊がハス田のハスの茎や電柱にたくさん付いていることでした。もともと食用目的で日本につれて来られた生き物ですが、稲やハスの食害も起きていることなどを話している間に水路に到着しました。

まず釣りをする前に安全面や釣り方（竿の扱い方やエサの付け方など）について説明しました。そしていよいよ釣りを開始しました。まもなくあちこちから「釣れた！」の歓声があがり、ほっと胸をなで下ろしました。

釣りの時間は 1 時間半ほどでしたが、ほとんどの参加者がフナやモツゴ、テナガエビなどを釣ることができました。2 ケタの釣果をあげる参加者も多くいました。エサ取り名人のクチボソ（モツゴ）や体長 3cm ほどのテナガエビもたくさん釣れて驚きました。最後にみなさんで釣れた魚を観察して、午前の観察会は無事終了しました。

午後は霞ヶ浦環境科学センターに場所を移し、魚の釣り方と魚の飼い方の勉強会を行いました。まずは午前中の釣りを振り返りました。たくさん釣れた方から、その理由を教えて頂いたり、いろいろな釣りに流用できる釣り竿や転落時に身を守るライフジャケットなどを紹介したりしました。その後、センター 2 階テラスにある展示水槽を使って魚の飼い方の説明をしました。多くの方が、御家庭で魚を飼育しているようで、参加者同士の間でも数多くの意見交換が行われ、あっという間に時間が過ぎていきました。

今回は人気の釣りを通した観察会を行いました。これからも霞ヶ浦が豊かな恵みと楽しみを与えてくれる場であるように、みなさんがその大切さを実感して頂けたらと思いました。

参加者のみなさん、パートナーのみなさん、大変ありがとうございました。

環境活動推進課 福井正人

今回、釣りによって観察した魚類、甲殻類は以下の通りです。

フナ属、モツゴ（クチボソ）、テナガエビ、ツチフキ、タイリクバラタナゴ  
（以下、参加者報告 ハゼの仲間、ブルーギル）

観察会の様子を御紹介します。



ハス田の間の道を水路に向かいます。



当日は雲1つない青空が広がりました。



この小さな水路がたくさん命をはぐくんでいます。



フナが釣れた！



釣れた魚たちを観察しました。



午後はお魚教室を行いました。



モツゴです。